

ひろば

平成18年1月31日発行

発行人 田沼武能 阪川武志

〒164-8678 東京都中野区本町2-9-5 電話 (03) 3372-1321

巻頭言

芸術学部2006①

ひろばのページ①

芸術学部卒業制作展開催について⑦

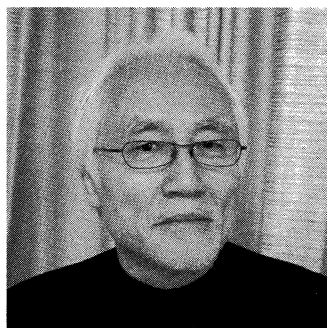
計 報⑧

編集後記⑧

巻頭言

芸術学部2006

芸術学部長 若尾真一郎



端的な学部として新たに誕生します。これは工芸大学が80余年前、写真というニューメディアを先取りした建学の精神に通ずるものだと思います。

しかし今後、少子化とめまぐるしく変化するテクノロジーの世界で生き残るためには、しっかりと理念の基に柔軟性ある思考と新しいアイデアが求められることだと思います。もう一つの問題として芸術学部は中野校舎の老朽化と手狭さにより学生等の収容能力や設備等が限界にきています。本来であれば1年から4年と大学院が同一キャンパスで過せることが理想ですが2キヤンパスのため各学科がバラバラの状態です(例えば写真学科は1、2年生が厚木、3、4年生は中野。アニメーション学科は1、4年生は厚木)。そこで各学科の3、4年生全員が同一校地で学べるように、校舎の移築をしなければなりません。特にメディア系の「都心で学ぶ」という利点は大変重要なことです。これらの事は、莫大な資金と労力が必要ですが今年中には何らかの結論を出そうと思っています。

このように2006年は、かつてない変革の年を迎えようとしています。私が常々思っていることは、私達教職員が魅力的だと思ふ大学を創らないと学生も決して満足しないということです。このことを念頭に置いて生き残りをかけた芸術学部の発展のため、積極的に行動したいと思っています。本年もよろしくお願い申し上げます。

ひろばのページ

写真展

桜井秀氏

(34期) 写真展

「臨界の黙示」

●2005年8月22日(月)～9月3日(土)
東京 銀座ニコンサロン

30数億年前に生物は海から陸に進出を始めた。それには地上の重力に耐えうるために背骨を造り、食道の一部が原始的な肺となつた。まさに、えら呼吸から肺呼吸に変わった神聖な境界線が海岸線である。我々の遠い故郷である海岸の汚れは痛ましい限りで、永遠に腐りそうもないプラスチック製品、最近とみに大型化した花火の残骸、等々。それでも自然の回復力には凄いものがあり、風や波や微生物の力を借りて黙々と浄化作用を行なっている。やがては波防塊すら砂に没する。今回の写真展は汚れた海の風景写真ではなく、彼らの浄化作用の様々なエネルギーシユなパターンを撮り纏めた写真展です。写真展を見ていただき、一人でも多くの人が島国日本の海岸を見つめ直してゴミの1つでも持ち帰って頂ければ、いやゴミの1つも捨てなければこの写真展は成功です。その願いを込めてここ数年日本の海岸線を撮り続けています。

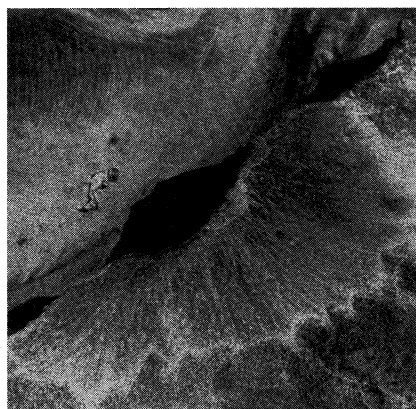


桜井秀氏

臨界の黙示

桜井秀写真展

2005年
8月22日(月)～9月3日(土)
10:00am～7:00pm
(祝日・日曜日は休館)
銀座 Nikon Salon
銀座クレストビル2階
ニコムプラザ銀座内



34期(写真工業科)同期会

平成16年12月11日(土)

毎年12月の第2土曜日絶えることなく開催してきた同期会も、23回目(卒業後45年目)を数えることとなりました。

34期工業科のメンバーは53名ですが、6名の故人、6名の消息不明者があり、結局開催案内の対象者は41名となっています。今回は金子隆幸氏幹事の下、表参道近くの「NHK青山荘」にて開催しました。参加者は16名と少な目でしたが、それでも一同に会せば、賑やかさが甦る。これが同期会の素晴らしい点でもあり、良い点でもあります。

なお、青山荘が余りにも好評だったため、次回(本年12月10日)も金子氏のお世話で、同会場で開催ということになりましたが、

これもご愛嬌のひとつでした。

記・川名(34期)



同窓会関西支部新年懇親会

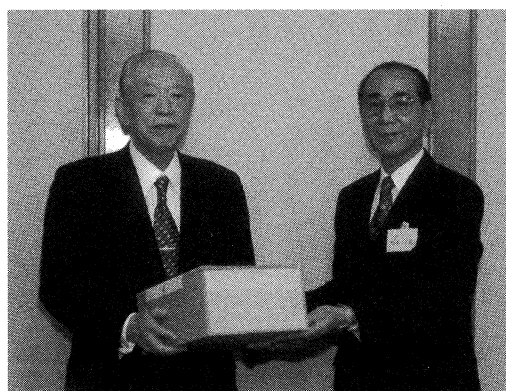
平成17年1月29日(土)
大阪弥生会館

平成17年1月29日(土)、関西支部恒例の新年会を大阪弥生会館で開催し近畿各地から40余名の同窓生が参加しました。大学からは、本多名誉学長のご出席を頂き、永年関西支部の総会にご出席賜り支部の活性化に大変貢献して頂いた感謝の印として記念品を贈呈させて頂きました。

総会は駕田様の司会で、30期の松本支部長のご挨拶で始まりました。今年の講演は昨年日本のノーベル賞と言われる「日本国際賞」を受賞されました本多名誉学長から、酸化チ

タン光触媒の理論を大変分かりやすくご講義頂きました。

その理論は、二酸化チタンの電極に光を当てると水を水素と酸素に分解し光触媒として働くことを発見されたものであり、水素というクリーンエネルギーが生産出来ることを示



松本一馬支部長より本多健一名誉学長に記念品贈呈



されました。また、二酸化チタンの強い酸化力を利用して、環境汚染物質、微生物などの分解・除去や汚れ防止の製品として、汚れない建物の外壁タイルやトンネル内の蛍光灯カバー等があり環境浄化に大きく貢献されている事を知り、一同は大変感激しました。

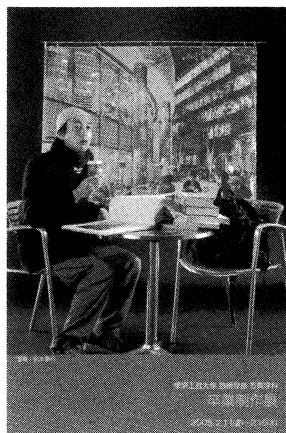
その後、39期倉橋様記念撮影があり、懇親会は31期工藤様の司会進行により23期上田顧問の音頭で始まりました。懇談の途中には、ビンゴゲームや27期石川様の見事な手捌きの手品が入り大いに盛り上げました。中締め乾杯は38期卒の滝口様が丁度今日が??歳のお誕生日なので若々溢れるバイタリテイにあやかり滝口様の御発声で今年の新年会も無事終了しました。記・俣野恒雄(工・4期)



写真展

芸術学部写真学科 卒業制作展

●2005年2月11日(金)～2月16日(水)
東京銀座・富士フオトサロン



35期写真工業科・製版技術専攻 同期会

平成17年2月27日(日)
東京・上野 池之端文化センター

卒業後、45年が経過し6年ぶり3回目の同期会を堤、八両先生をお迎えして、総



勢12名で13時より開催した。

当初は、昨年11月に予定したが長岡在住の山内君が新潟県中越地震に遭われ新幹線復旧を待って開催した。卒業以来初めての顔合わせ、京都・浜松からの参加もあり、2時間30分の会場時間を1時間延長して飲・食・話を楽しんだ。 記・宮内(35期)

芸術学部卒業式と祝賀会

平成17年3月24日(木)
東京中野区・中野サンプラザ

2004年度の芸術学部卒業式が2005年3月24日(木)中野サンプラザにて行なわれました。ご卒業おめでとうございます。皆さんは、芸術学部が発足してから8回目の卒業生で、本会の80期です。ご活躍を期待します。

午後から卒業式を行ない、つづいて、大卒後援会と本会の共催で卒業祝賀会を開催しました。400名以上の方が集い、大変盛会でした。 記・阪川(37期)



同窓会長田沼武能氏(24期・左)と
芸術学部長若尾真一郎教授(デザイン学科・右)

「旅の30会」(30期)

平成17年4月23日(土)～25日(月)



30期卒業生13名が出席。写真工業科、写真製版科、写真技術科の同期の桜の面々が全国(東京、大阪、名古屋、宝塚、新潟など)から集まった。

4月23日(初日)は飛騨高山の夜祭(夜の屋台曳き廻し)を運よく見物できた。後、穂高荘いいやま御苑にて、飛騨牛などご馳走をいただき一泊した。

4月24日、早朝、高山市内を流れる宮川の満開の桜を見ながら河岸通りで朝市に行き、土産に赤蕪を買ったりした。高山祭の山車も見ることができた。20数台の豪華な屋台は、そのみやびやかさ、元禄の昔(17世紀)に創建されたという伝統の重みが風格を加えていた。夕方、穂高荘山のホテルの山峡檜の湯という地域最大の露天風呂・混浴に入った。夕方であったので顔や身体はよく見えなかったが同期仲間の女性も入浴したとか。初体験(?)ができて何より満



上段左から古屋、福岡、風呂田、大沢、長谷川、加藤
下段左から曾根、貝塚、今村、堤、石塚、千葉

足したことと思う。夕食もご馳走がでた。山女魚の刺身は、生まれて初めて食べたがとてもおいしかった。また、カラオケやダンスを興じた。夜遅くまで楽しんだ後、山の上のホテルのそれぞれの部屋で休んだ。4月25日、朝ホテルをチェックアウト。希望者9名が新穂高ロープウェイに向い西穂高口駅で降り、展望台から雲一つない青空の素晴らしい奥穂高岳、創ヶ岳など穂高連峰の景色を満喫した。

この旅を立案および世話をしてくれた加藤尋康くん、ありがとうございました。

記・風呂田(30期)

「26期会」

平成17年5月24日(火)
東京・台場「大江戸温泉物語」

26期会開催

平成17年5月24日台場「大江戸温泉物語」

で開催。参加9名の内同伴が2名あったので、計11名の参加。一組は北九州より参加。平均年齢75才にしては良く集まったと思う。会場は非常に長時間滞在できておむね好評だった。翌日有志で旧母校の東京工芸大学を尋ね、畑先生のご案内で見学、昔日の面影も無い程に発展した大学を目の当たりにして驚くと共に、今の学生を羨ましく思った次第。畑先生ご多忙中ありがとうございました。

記・中一訓(26期)



写真展
中村太郎氏
(35期)写真展

「山形、好きです」

●2005年6月3日(金)～9日(木)
東京銀座・富士フォトサロン

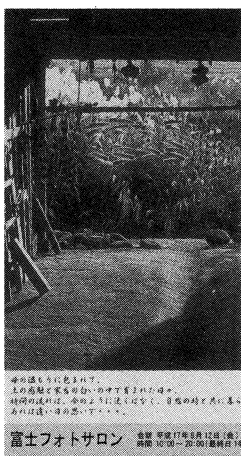


写真展
岡本良治氏
(54期)写真展

「農の記憶」

●2005年8月12日(金)～18日(木)
東京銀座・富士フォトサロン

農の記憶
岡本良治 写真展



富士フォトサロン
会場 東京 7月8日 12時(金)～8月12日(木)
開場 10時～20時(最終日14時まで)

著書『写真で見る東京の激変』

2005年8月20日(土)
発行 (株)世界文化社

著 大竹静市郎氏(35期)

『写真で見る 東京の激変』
出版のご案内

私は写真展「東京の繁華街定点40年間の変貌」を2001年12月に東京で開催。雑誌に紹介されて以来、各地の設計事務所長や級友の要請に応じて「都市の変容」と改題し当地の景観を加えながら6都市で巡回展を行なうようになりました。その折鑑賞いただいた方々には感謝の気持ちでいっぱい입니다。その後、東京の変貌に絞った出版の実現に向け撮影箇所をふやし再撮影も行った、この程『写真で見る 東京の激変』と題して世界文化社「家庭画報」出版元より8月2日発行されることになりました。

昭和30年代半ばの東京主要地の景観と生活スナップ、それに対応した現代の定点撮影を行なったカットは50景1000点に達しています。撮影地点の地図作成に加え、評論家・川本三郎氏に東京随想を寄稿していただき、充実した東京の変貌写真集を完成させることができました。総216頁建て4色刷り初版7,000部、予価1,890円と出版社もたいへんに協力的です。発刊の晩には広告等で告知されますが、どうぞ書店でご覧の上、貴家の蔵書にお加えいただきますようお願い申し上げます。

2005年7月 大竹静市郎

〒151-0053

東京都渋谷区代々木2-23-111070

(株)ホーム企画

TEL・FAX 03-3379-4140



新潟県支部総会のご報告

平成17年8月28日(日)

長岡市・アトリウム長岡

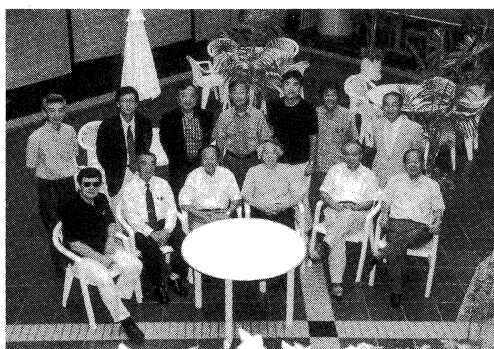
会員の皆様におかれましては益々ご健勝でお過ごしのこととお慶び申し上げます。

先日はご多忙のところ支部総会にご出席くださいまして誠に有難うございました。

今回は阪川教授からは大学の近況をお聞かせ戴き、自動車評論家の44期の川上さんより最近の車事情と題して大変に面白いお話をさせていただきました。

39期の栃尾の小林さんには中越地震を取材したパネル写真を展示していただき写真の説明を含めお話をいただき大変に有意義な同窓会となりました。

久しぶりに会員同志のコミュニケーションもでき、楽しい会合がもてましたことを大変喜んでおります。又今回の出席者は13名と少人数でしたが中身の濃い同窓会が出来ました。来年は30期の十日町の渡辺さんにお骨折



りいただき当間高原で一泊どまりの同窓会を企画しておりますので大勢の参加者になるように会員の方にお声をかけていただきご参加いただきますようお願いいたします。

私が同窓会の支部長になり10年になります。この間、皆様のご協力でオリジナルプリント展などの催しも開催する事ができ厚く御礼を申し上げます。

そろそろ若い方に支部長のバトンタッチをしていくことが支部活動の活性化にもなりますので44期の長岡の小林俊郎さんをお願いしたいと考えました。小林さんに内諾を得ましたので懇親会の席上で皆様で話をしましたら全員賛成をいただきましたので来年の総会に議題に上げ正式に決定したいと考えております。

次回総会には出席率を高めるためにも同期の方々に是非お声をかけて一人でも多くの方に参加して頂きますようお願い致します

支部長 堀江真雄 (33期)

田中益男先生(39期)を囲む会

(46期生1年Dクラス)

平成17年9月3日(土)

田中益男先生は、長年に亘って東京工芸大学で教育等に携わって来られましたが、平成17年3月末にてご退職されました。46期生1年D組もご指導頂いたクラスの一つです。感謝を込めて9月3日に新宿で『田中益男先生を囲む会』を行いました。当日は先生のご案内のもと、懐かしい母校の見学ツアーも行い、新宿にて恩師を囲み盛大に行いました。

今後も健康にご留意のうえ、益々のご活躍をお祈りいたします。長年に亘りご指導頂いた事に感謝しております。

(参加者全員が変わらぬ若さにも驚きました。)
幹事 新井・富野



田中益男先生 (右)



写真展
増本泰斗氏
(79期) 作品展

「ALL NOTES ON」

●2005年9月3日(土)～9月17日(土)

東京大田区田園調布

art & river bank

写真展

山下晃伸、伊藤俊介、石井清士氏

(芸術学部写真学科3年生) 作品展
「工芸大三年三人展」

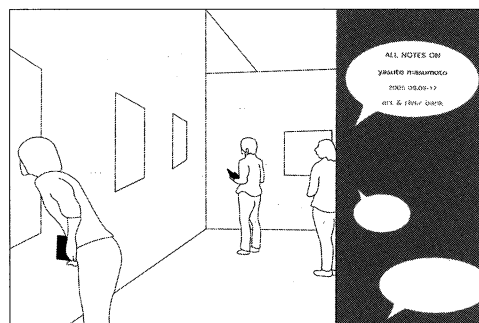
●2005年9月6日(火)～9月11日(日)

東京新宿区神楽坂 ART SPACE エフ

工芸大三年三人展
Team ASK

山下晃伸 伊藤俊介 石井清士

神楽坂Art space エフ9月6日～9月11日
AM11:00～PM平日6:30土日6:00(最終日はPM5:00まで)



写真展

立川宏司氏
(42期) 写真展

「雨幻(あめまぼろし)II」

●2005年9月21日(水)～10月2日(日)
東京四谷…ポルトレイトギャラリー
(社・日本写真文化協会)

雨幻(あめまぼろし)II 立川 宏司 写真展

会期:2005年9月21日(水)～10月2日(日)
10:00am～6:00pm (入場無料)
(日曜・祝日閉館/休館日: 9月24日(金)は休館日です)

Portrait Gallery



写真展

上木健裕氏
(80期) 写真展

「Formosa」

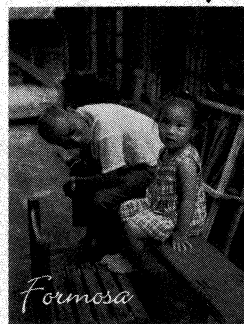
●2005年9月27日(火)～10月3日(月)

東京新宿…ニコンサロン

●2005年12月1日(木)～12月6日(火)

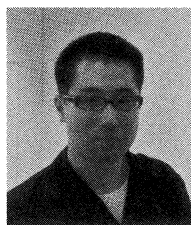
大阪…ニコンサロン

Nikon Salon jun'ai



上木健裕 写真展

2005年9月27日(火)～10月3日(日) 10:00～18:00(最終日は18:00まで)
新館 Nikon Salon 新館エスエフエー28階 コンクリタビ館内
2005年12月11日(月)～12月16日(土) 10:00～18:00(休館日12月15日)
大阪 Nikon Salon (ミナミシティビル) 3F ニコンプラザ大阪内



写真展
写真短大OB(41期)
作品展とクラス会

平成17年10月7日(金)～10月13日(木)
東京・日比谷・富士フォトギャラリー

第1期卒 写真短大OB 作品展
10/7(金)～10/13(木)
富士フォトギャラリー
日比谷 日比谷公園
03-3510-8771
写真展
大しほの山崎山を撮影して行きます。
写真展のついでにクラス会も行います。
10/7(金) 10/8(土) 10/9(日) 10/10(月) 10/11(火) 10/12(水) 10/13(木)
入場料 A席 1200円 B席 800円 C席 500円
会場 写真短大OB(41期)作品展
写真展 写真短大OB(41期)作品展



写真集「自然豊かな四季
のまち 激震6弱・栃尾
の大地を動かす」

新潟県中越地震記録写真集
製作・発行 2004年10月23日(火)
小林フォトスタジオ
(TEL) 0258-522433

著 小林正樹氏(39期)



写真展
岡村征夫氏(41期)
金子良二氏(42期)
写真展

「キューバの芸術家達」

2005年11月21日(月)～12月6日(火)

東京工芸大学芸術学部芸術情報館ギャラリー

IA

岡村征夫氏、金子良二氏の写真展と共に、

岡村征夫・金子良二写真展
キューバの芸術家達
会期 2005.11.21～12.6
10:00～17:00(日曜日・祝日休館) 入場無料
会場 東京工芸大学芸術学部芸術情報館3階 ギャラリーA
東京工芸大学 芸術学部
(〒158-8501 東京都目黒区文京 2-15-11 03-3572-1121)

「現代キューバ芸術の潮流を探る」として、
●2005年11月21日(月)～12月6日(火)
「キューバの映画ポスター」芸術情報館ギ
ャラリーB

●2005年11月21日(月)～12月20日(火)
マリオ・ディアス写真展「キューバ198
0～2000」写大ギャラリー
が開催されました。

写真展
坂本秀樹氏
(57期) 写真展

「視界」

●2005年12月2日(金)～10日(土)

新潟市並木町・新潟松屋

私が写真を撮っていると人に不思議そう
に見られるときがある。何の変哲も無いシ
ダやら樹木を必死に撮っているからだ。し
かし、他人から見ればなんでもない光景の
中に「おお!こいつは!!」と思う光や影を
見たときは嬉しくてたまらない。そう、ち
やうど「テレビに映る(相撲中継の)土俵
の向こうの(枡席に座る)和服美女」を見
つけたときのようなものだ。そんな私の
「視界」を楽しんでほしい。

Sakamoto Hideki
写真展

写真展
土屋育子氏
(73期・映像学科)
「第7回 三木淳賞」作品展

「IMAGES OF TRUST」

●2005年12月6日(火)～12日(月)
東京新宿・ニコンサロンbis21

●2006年1月26日(木)～31日(火)
大阪・ニコンサロン

第7回 三木淳賞受賞作品展

三木淳賞

土屋育子写真展IMAGES OF TRUST



写真展
立木義浩氏
(33期) 写真展

「人間列島」

●2006年1月5日(木)～29日(日)
東京千代田区・JCIフォトサロン

JCI PHOTO SALON
立木義浩写真展
「人間列島」
2006年1月5日～29日
会場 千代田区千代田 千代田区立千代田図書館
JCI千代田支部 千代田区立千代田図書館 千代田区立千代田図書館

2005

フォックス・タルボット賞

フォックス・タルボット賞は、写真表現に情熱を傾ける若い人々の新人登竜門としての機能を果たし、更には国際的視野にたつ写真家の育成を促進する目的をもって、1979年に東京工芸大学短期大学部が設けました。今回で第27回を向かえることになりました。

本賞の名称はイギリスのフォックス・タルボット美術館のご協力を得て、ネガ・ポジ・プロセスの発明者で近代写真術の父としてのウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット氏(英・William Henry Fox Talbot 1800~1877)の偉業をたたえて、氏の名前を冠しました。

本年度のフォックス・タルボット賞の応募者は73名、作品数91点となりました。

10月12日、5人の審査委員の先生方による厳正なる審査の結果、別記の通り入賞作品が決定いたしました。

受賞者の皆さん、おめでとございます。

この榮譽を誇りとして、今後、更なる飛躍を期待しています。これらの作品は、写大ギャラリー・コレクションとして永久保存させていただきます。

ご来場の皆様には、本写真展を通じて、入賞者への励ましのお言葉とともに今後へのご助言をいただければ幸いです。どうぞ、ゆつくりとご覧ください。

なお、フォックス・タルボット賞の授与に際し、ご後援いただきましたコニカミノルタ画像科学振興財団に対しまして、厚く御礼申し上げます。

2005年10月

東京工芸大学芸術学部

フォックス・タルボット賞委員会

●2005フォックス・タルボット賞

入賞作品

第一席 「対によるイメージ」

中村 雄大 芸術学部写真学科4年

第二席 「東京迷子」

梁 丞佑 大学院芸術学研究科

第三席 「サテライト」

鈴木 心 芸術学部写真学科・05年卒業

佳 作 「閑寂」

高橋ひさの 芸術別科

佳 作 「新宿」

山下 晃伸 芸術学部写真学科3年

佳 作 「玉響」

高木サダ子 芸術別科

佳 作 「Love」

上木 健裕 大学院芸術学研究科

佳 作 「マテリア」

長島 一剛 芸術学部写真学科3年

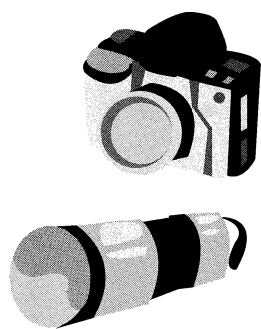
モノクロ賞 「untitled」

富安 隼久 芸術学部写真学科4年

※審査委員 田沼武能(委員長)

奈良原一高 細江英公

中谷 吉隆 立木義浩



東京工芸大学「平成17年度 芸術学部卒業・大学院修了制作展」開催について

学部長 若尾真一郎

東京工芸大学では「平成17年度 芸術学部卒業・大学院修了制作展」を左記概要にて開催いたします。

今年度は、学科毎の4会場を設けて同時開催いたします。各会場とも、入場無料、事前予約等は不要です。卒業生・修了生・研究生たちの学生生活の集大成となる作品にご期待ください。

記

■開催期間

2006年2月17日(金)・18日(土)

・19日(日) 連続3日間

開場時間 11:00 am 19:30 pm

※最終日のみ17:30 pm終了

■学科別開場

○写真学科 卒業制作展会場

モータポリティカ(港区南青山6-6-21)

交通/銀座線・千代田線・半蔵門線

「表参道」B1出口より徒歩10分

○映像学科 卒業制作展会場

東京工芸大学 芸術情報館(中野区本町2-4-7)

交通/丸の内線・都営地下鉄大江戸線

「中野坂上駅」下車、1番出口

より山手通りを渋谷方向に進み、本町2丁目交差点を右折

○デザイン学科 卒業制作展会場

ラフォーレミュージアム原宿(渋谷区神宮前1-11-6 ラフォーレ原宿6階)

交通/千代田線「明治神宮前」5番出口より徒歩1分

または、JR山手線「原宿」より徒歩4分

○メディアアート表現学科

卒業制作展会場

テレビ朝日「umu」(港区六本木6-9-1 六本木ヒルズテレビ朝日本社1階)

交通/日比谷線「六本木」駅より徒歩5分/大江戸線「麻布十番」駅より徒歩5分

○芸術学研究科メディアアート専攻 修了制作展会場

上記各会場に分かれて実施いたします。

■お問い合わせ

中野キャンパス 学生課

TEL 03-5371-2674

URL http://www.t-kougei.ac.jp

石井さんとの思い出

33期 武井武彦

最近の石井さんとの話題はデジカメが中心。パソコン・デジカメに関して私は後発。未だに銀塩が主流で特に暗室まで作りモノクロを楽しんでいる私に、そういう人種を「抵抗勢力」と言うんだ、などと言われながらもデジカメの教えも請うていた。

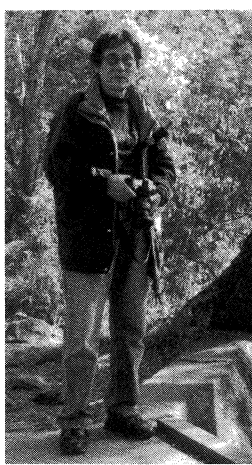
私のパソコン歴は短く60歳も大分過ぎてから、機種を何にしようか迷っていた時、カメラマン・デザイナーは皆マックを使っているよ、などと言われマックにしたような気がする。

石井さんはニコンD70を熟知し更に新しく出るニコンD200に挑戦する予定でいたが、残念にも果たせなかった。

昭和33年写大卒業、年齢は上でしたが同期生。学生時代はグループが違い付合はなく、背が高く細身のいい男がいたぐらいの記憶しかない。この年石井さんは「文藝春秋」私は「主婦の友社」に入社、二人共「雑誌写真記者会」に入会することになる。

石井さんが「日本雑誌協会雑誌写真記者会」幹事長（1979～91年）時代、宮内庁雑誌記者クラブ・会計幹事など幹事会でお手伝いしていた1981年頃がお付合の始まりと記憶する。また偶然にも私の兄が上田高校（長野県上田市）の同期生だった事も分かった。

平成17年10月27日、福島県、奥磐梯五色沼にて、東京昭島市写真の「写優会」撮影旅行に同行し講師として指導中。在りし日々の「石井正彦」氏（59歳）（写真提供「写優会」）



当時雑誌写真記者会はまだ創生期で、組織や取材上、多種多様な問題点が多く、それぞれの解決にまた新しいルール作りに尽力され、「雑誌」各社、会員の要望も厚く12年間の長期に亘り幹事長を務められた。

我々が写真始めた頃写真と言えは報道写真で、写真に対する知識もあまり無く報道写真を目標に写真の世界に入っていた。石井さんは月間「文藝春秋」「週刊文春」のグラビア中心の撮影、私は料理中心の撮影のため仕事上の接点は少なかった。

昭和33年と言えばスーパースター長嶋茂雄氏の登場、月とスッポンだが我々と同年に社会人となった。何かと言うと石井さんの撮った芝生に横たわり子どもと遊ぶ長嶋親子の写真が大概、お気に入りなのである。その数年前になりますか、春になると伊豆のゴルフ場で自主トレ中の長嶋選手を取材した。柔軟体操をしまだ茶色のフェアウエーの脇を走り、素振りを繰り返してレーニングに励む姿がダブッてくる。石井さんと私の数少ない接点と思う。

二人で話をしている時は7・3ぐらいで酒を飲みながらの方が多かったようだ。好物のかつお・締め鯖・らっきょう・ほっけの開きなどを肴に。幹事長の頃は「雑誌」関係の事、ゴルフ、アメリカ・イタリアなど海外家族旅行の話、近鉄の広告撮影の裏話その他、大声を出したり激論をするような事はなく淡々と特に人の陰口などはまったく無かった。

自然が好きで四季の高尾山の話をよくしてくれた。退職後は紅葉した綺麗な落ち葉の撮影が多く銀座で写真展も開いた。高尾山に一度案内してもらった約束であったが残念。我が家の庭に石井さんの思い出が一つ在る。

以前石井さんが小さな植物の苗を持って我が家を訪ねてくれた。「日陰に植えておけば今に花が咲く」とのこと、最近30cmぐらいになり葉も出てきた、花の名前は聞いたが忘れていた。花が咲けば分かるだろうと楽しみにしていた。この話を奥様に写真を見て頂いたら「額あじさい」であることが分かった。

石井先生になって3年近くになりますか、大学の講師になり写真の講義を始めた。人気のあった講義のようで、ぜひ聴きに行ってみたくて言ったところ「恥ずかしいから来ないで」とのことであった。

平成13年「気づきの写真術」（文春新書）を上梓した、「カメラを持った芭蕉になろう」というサブタイトルの初心者向け指南書である。この企画が始まった頃から初心者にはどういふことを教えたら良いか、話し合った。出来上がった本を読むと、初心者向けの簡単な技術書と想っていたものが初心者どころか今の私たちが心しなければならぬ内容、勉強家で読書人でもある石井さんらしい出来上がりと思う。

前日迄穏やかで何時もと変わらず元氣な、深酒をすることもなく人一倍体に気を遣っていた石井さんと、こんな別れ方をすると寂し過ぎる。仲良しであり一足先に雲の上の人になった近ちゃん（写大同期の近藤昌義さん）と昔話でもしているかな。

合掌

「石井正彦」氏の突然の訃報に接し、驚き誠に残念でたまりません。

正彦氏は平成17年12月3日正午、家族に見まもられ永遠の別れをされました。病名は心筋梗塞との事でした。

同郷でもあり、学友（写大33期）の親友「武井武彦」氏に「石井正彦」氏の思い出を綴っていただきました。

「石井正彦」さん、安らかにご冥福をお祈りいたします。
記・中村正弥（34期）

訃報

勝本剛弘氏（51期）	平成16年2月3日
伊東 誠氏（25期）	平成16年2月20日
湯川浩佑氏（10期）	平成16年2月23日
市川文雄氏（25期）	平成16年2月26日
矢島一雄氏（20期）	平成16年3月5日
藤井勝利氏（34期）	平成16年10月14日
堀田好敏氏（33期）	平成16年11月3日
内藤清明氏（18期）	平成17年2月11日
二階堂忍氏（6期）	平成17年7月5日
坂本直也氏（33期）	平成17年8月30日
山下新平氏（18期）	平成17年9月12日
垣田良夫氏（16期）	平成17年9月27日
石井正彦氏（33期）	平成17年12月3日

心よりご冥福をお祈りいたします。

編集後記

本会では、会員名簿を保有しています。新しいものは75周年（2001年）のときに発行いたしました。その後、個人情報保護の問題が生じ、名簿が発行しにくくなっています。「ひろば」は、発行ごとに郵便で発送していますが、これから先の「ひろば」の発送に支障がなければと思っております。次の名簿の発行については、総務委員会でも検討していただいておりますが、「ひろば」の発送先について変更が生じた場合には、中野キャンパスの花川正英先生（総務委員会委員）あてに連絡してください。

記・阪川（37期）